

### 3. ライトアップの現状と問題点

#### (1) ライトアップの現状

- 都内では、東京スカイツリーや東京タワー等の民間施設や国会議事堂、隅田川橋梁などの公共施設において、常時ライトアップが行われ、夜景観光ツアーコースの一部にもなっている。
- 夜桜や紅葉のライトアップ、クリスマスシーズンのイルミネーションなど季節的なライトアップのイベントも都内各所で行われている。
- 日本は、海外からLED大国と言われており、文化・公共施設やランドマーク等では、質の高い最新のLED照明が使用されている施設もあり、光による演出が行われている。



図 2 東京スカイツリーのライトアップ



図 3 六義園紅葉時のライトアップ



図 4 千鳥ヶ淵桜のライトアップ



図 5 目黒川イルミネーション



図 6 隅田川永代橋ライトアップ



図 7 丸の内仲通りのイルミネーション

## (2) ライトアップの問題点

- 現在、都には、良好な夜間景観をつくり出すための、照明に関する基準等がないため、商店街など施設管理者ごとに仕様・規格が異なる照明器具が使われていることがある。
- 必要以上に明るすぎることで、光害（詳細は、4（1）で説明）を引き起こしている照明も見られる。



図 8 ランドマークの周辺が明るすぎる例

- 施設の新設や改修事業にあたり、本来必要な機能照明の設置に際しても、必要な照明範囲以外に光が漏れる「漏れ光」による光害やエネルギー浪費につながっているケースも一部で見られる。
- 多くの公共施設は、機能照明を優先し、施設のライトアップまで手が回らないケースが見られる。



図 9 漏れ光が著しい例

- 東京 2020 大会に向け、今後ますます、東京に国内外から多くの観光客が訪れ、メディア等で注目される機会も増加することから、世界に紹介できる、東京ならではの夜間景観をつくり、東京の魅力を更に高めていくことが必要である。